



No.109  
2018.11.2  
兵庫県立神戸商業高校  
図書館  
新着図書紹介

第72回読書週間

「ホッと一息 本と一息」

10月27日～11月9日



(リ):リクエストされた図書



「星野源 音楽の話をしよう」 星野源

大人気対談連載ノーカット完全版。

「ライフ！現代社会2018」 池上彰

世の中の動きに強くなる！

「アップルのリンゴはなぜかじりかけなのか？」 廣中直行  
～心をつかむニューロマーケティング～商品開発の鉄則は、人々が自分でも気が付いていない『欲求』を読み覚ますモノを提示すること。



「送り火」 高橋弘希

第159回芥川賞受賞作！東京から山間の町へ引っ越した中学三年生の歩。あの夏、少年たちは暴力の果てに何を見たのか――。

「ファーストラブ」 島本理生

第159回直木賞受賞作！なぜ娘は父親を殺さなければならなかったのか？『家族』という名の迷宮を描く長篇。

「僕のヒーローアカデミア 雄英白書 I～III」 堀越耕平

I：1-A：授業参観、II：林間合宿：裏面  
III：寮生活24時(リ)

「イノセントフェイス」 早見和真

少女はなぜ、死刑囚になったのか。

「サイレント・プレス」 南杏子

～看取りのカルテ～人生の最期の日々を穏やかに送れるよう手助けする医療の大切さに気づく。

「友罪」 薬丸岳

心を許した友は、あの少年Aだった。少年犯罪のその後を描いた長編小説。

「未来のミライ」 細田守

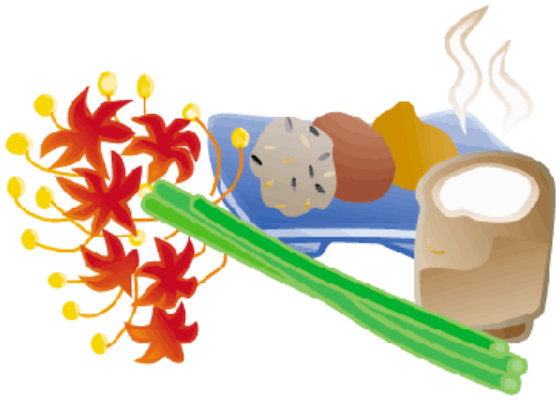
生まれたばかりの妹に両親の愛情を奪われたと思う甘えん坊のくんちゃん、ミライちゃんと時を越えた冒険へ旅立ちます。

「市場って何だろう」 松井彰彦

―自立と依存の経済学―

「ゆるいつながり」 本田直之

―協調性ではなく、共感性でつながる時代―見せかけの人脈はもういない！



## 「旅に出たくなる地図

関西」 帝国書院

関西地方と周辺地域の観光スポットを県ごとの地図で紹介する。

## 「天才たちの日課」メイソン・カリー

クリエイティブな人びとの必ずしもクエイティブでない日々

## 「絶望を生きる哲学」 池田晶子

—池田晶子の言葉—

## 「創作者のためのファンタジ

—世界事典」 幻想世界探求倶楽部

—ゲームクリエイターが知っておきたい神話・幻獣・魔術・異世界のすべて

## 「未来の中国年表」 近藤大介

～超高齢大国でこれから起こること～約30年後の中国は5億人の老人超大国に。『一人っ子政策』のツケが未来に重くのしかかる

## 「裁判所ってどんな

ところ？」 森炎

—司法のしくみがわかる本—裁判官の素顔、法廷内の決まりから、法学・憲法学・法哲学の考え方まで。

## 「ブラックホールをのぞい

てみたら」 大須賀健

不思議に満ちた暗黒の天体をやさしく解説！

## 「日本人は知らない中国

セルフ消費」 袁静

中国人実業家が迫るインバウンド消費のツボ。台頭する『プチ富裕層』の実態とは？

## 「色の名前事典507」 福田邦夫

JIS規格の269色を含む日本の色、世界の色、507色の由来。

## 第30回 読書感想画コンクール

読んだ感想を絵に描こう

応募要項は、図書館前に置いています

### 新ぶらり選書（5） 高井先生

## 『バッタを倒しにアフリカへ』

前野 ウルド 浩太郎：著（光文社，2017）

世の中には変わった人がいるもんですね。

「**バッタに食べられたい**」

こんな夢を叶えたいと思ってアフリカまで行った昆虫学者がいます。そんな不思議なことを夢見る少年だった人が書いた本です。

作者は昆虫学者ですが、『ファーブル昆虫記』のファーブルに憧れ昆虫学者を志しました。さらに、外国で大発生したバッタに女性観光客が緑色の服を食べられたことを知り、冒頭の「**バッタに食べられたい**」に繋がるわけですね。小さな頃には平気だったのに、今はなかなか触るのに勇気がある昆虫を調べようなんて正気の沙汰ではないと高井は感じてしまうのですが。

その夢を叶えるためにアフリカに渡った作者の山あり谷ありの旅の本です。サソリに刺される件や砂漠で迷子になるなど、よく考えたら深刻な話を軽快な文体で書かれているので、とても読みやすく一気に読み切ってしまうと思います。

図書館で1年4組担任の南里先生に「この本おもしろいですよ」と薦められて読んでみて大正解でした。ぜひみなさんも読んでみてください。虫の話ですが、そんなえげつない描写があるわけではないので、虫嫌いの人も読んでみても大丈夫ですよ。

この本の中で登場した好きな言葉を紹介しておきます。

「**夢を叶える最大の秘訣は、夢を語ることだったのかなと、今気づく。**」